

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第2回上越市立図書館協議会

2 議題等(公開非公開の別)

(1) 報告事項(公開)

ア 平成30年度決算の状況について (資料1)

イ 令和元年度補正予算及び今年度の事業実施状況・今後の予定について
(資料2、3)

ウ 読書週間事業について(10/27～11/9) (資料4)

(2) 協議事項(非公開)

ア 令和2年度予算・事業予定について

イ その他

(3) その他(公開)

3 開催日時

令和元年11月20日(水) 午後1時30分から

4 開催場所

上越市立高田図書館1階 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

議題(2)協議事項については、「市の意思形成過程に関する事項」に該当するため非公開。

7 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

・委員：上原委員、大堀委員、小埜委員、河村委員、高野委員、三浦委員、丸山委員

・事務局：社会教育課 川上参事、内藤高田図書館長、布施副館長、小林主任司書、
佐藤係長、柴山直江津図書館長、横手副館長、内山上席司書

8 発言の内容(要旨)

<上越市立図書館条例施行規則第18条2項の規定により小埜委員長が議長となる>

○平成30年度決算の状況について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

丸山副委員長 : 利用者の拡大について、どのように考えているか。人口減少が進むなかで、今後も現状の数を維持したいと考えているのか、それとも微減もやむなしと考えているのか。自身が関わっている障害者サービスでは平成29年度以降、減少傾向が続いている。

内藤館長 : 細かなところでいえば、今年度、1階ホールを会場に標本展を開催した。いただいたご意見のなかには、これは博物館で行う催しではないかというものがあつた。しかし、展示を見て疑問に思ったことをすぐ本で調べることができる図書館という場所が、学びの入り口になるという思いがあつて実施した。市民の知識欲をくすぐる仕掛けを狙つての催しである。また、七夕に合わせ、清里星のふるさと館から隕石のレプリカを借りて展示を行った。ただ本を借りるだけの図書館ではなく、図書館をどう活用することができるのかを知ってもらえるような仕掛けを実施していきたいと考えている。展示を見に来た方が、じゃあついでに本も借りていこうかと思ってもらえることを期待している。また、直江津図書館も水族博物館うみがたりと連携した催しを企画したりしながら利用者拡大に努めているところである。

柴山館長 : 直江津図書館については、まず、来館しやすい環境の整備として、現在、民間事業者が当館向かいに立体駐車場を整備している最中であり、この立体駐車場の一部を直江津学びの交流館の駐車場として借り受けるという計画で進めている。次回の図書館協議会には資料を提示して説明させていただく予定である。直江津学びの交流館の駐車場として30台分を借り受ける予定としているが、以前あつた臨時駐車場が25台であり、利用率が高かつたことから、大きく期待しているところである。ただ、駐車場を整備して、それがどれだけ直江津図書館の利用増に結び付くかについては、またひとつ何かの仕掛けが必要と考えている。直江津図書館は近隣にある直江津中等教育学校の生徒の居場所としての利用も多いので、それらの生徒の方々にも図書館の資料を活用してもらえよう環境を整えていきたいと考えている。

○令和元年度補正予算及び今年度の事業実施状況・今後の予定について

- 事務局 : 別紙資料 2、3 により概要説明
- 内藤館長 : 高田図書館では、平成 30 年度の夏は冷房が効かず、室温が 30℃から下がらないということがあり、今年も冷房が効いたり効かなかったりという不安定な状態であった。今回の改修によって令和 2 年度は利用者に迷惑がかからないようにできると考えている。このカーボン・マネジメント強化事業は今回、高田図書館ほか 2 施設で改修を行い、効果が認められれば市の他の施設でも実施していくというものである。電気代の削減のさきがけになることができると期待している。
- 議長 : 小川未明文学館も改修対象に入っているが。
- 内藤館長 : ずっと照明を点けている施設でもあり、同じ図書館内の施設として、例えばこの会議室よりは小川未明文学館のほうが、削減効果を期待できるのではと思い、改修対象としたものである。
- 丸山副委員長 : 高田図書館内の空調環境の悪化で利用者が減少したということはないか。
- 内藤館長 : 特に大きな影響はなかった。非常扉を開けて閲覧室の空気をホールに逃がすなど、できる対策はとってきた。
- 議長 : 資料 3 の事業実施状況、資料受入や貸出関係についていかがか。
- 内藤館長 : 高田図書館では、平成 30 年度は、図書館利用者は 11 万 5 千人であり、ここ 5、6 年のうちで一番多くなった。さらに今年度 9 月までも前年度を上回る利用があった。やはり、いろいろな仕掛けで来館者が増えれば、貸出利用者も増えるので、今度はさらに本を借りてもらえる仕掛けによって貸出冊数の増にもつなげていきたいと考えている。
- 柴山館長 : 昨年度の図書館協議会でも報告したが、直江津図書館では、平成 30 年 4 月に臨時駐車場 25 台が閉鎖されて以降、毎月、対前年度比で 500 人も利用者が減っていた。当初は駐車場閉鎖が原因と思わず、いろいろな仕掛けで利用者の呼び込みを図ろうとしたが、7 月末にホテルと協議し、施設の玄関前のスペースを約 10 台分の駐車場として利用開始したところ、8 月から利用の減少に歯止めがかかり始め、9 月には前年度並みに戻ったということがあった。今年度ここまでの利用件数は、臨時駐車場が閉鎖される前の水準に近付いている。

高野委員 : 直江津図書館を利用するときは、駅の南口駐車場から重い荷物を持って行っていたので、近くに駐車場ができると非常に助かる。

丸山副委員長 : 直江津図書館はオープン以来、駐車場がずっと課題になっていたので、解決につながることを期待したい。新しい立体駐車場について概要を教えてもらいたい。

柴山館長 : 当館前の道路を挟んだ向かいに日本たばこ産業の営業所跡地があり、民間事業者が直江津地区の活性化につながる複合ビル建設と合わせて3階建ての立体駐車場を整備している。これが完成すると約200台の駐車が可能になる予定である。このうち、30台分を借りる予定にしているが、借り受けるスペースは特に固定しない予定である。複合ビル内には、今は上越警察署内にある運転免許センターが入居する予定で進んでおり、同センターの利用者も駐車する予定になっている。200台分の駐車スペースがあれば、図書館利用者分の30台は、わざわざ固定スペースを確保しなくても十分、駐車できるであろうという試算を受けての判断である。

丸山副委員長 : 駐車スペースを固定にしないということは、それを超えて駐車してもよいということか。

柴山館長 : そういうことになる。運転免許センターは、日曜日は営業しないと思われるので、日曜日に催しがあれば、その来場者も立体駐車場を利用できるものと考えている。

内藤館長 : 事業実施状況にある「おはなしランチ」について補足させていただく。学校にも協力いただき、また、給食を担当する教育総務課の栄養士にも協力してもらい、子どもたちにとって学校に来る楽しみのひとつである給食と、おはなしを結び付ければ学校の図書室や市の図書館に行き本を読んでみようと思ってもらえるのではないかと思い、今回、初めて企画したものである。

三浦委員 : 私も学校で楽しみに思っていた。行事の都合で「ごんぎつね」の回しか味わえなかったが。

内藤館長 : 市の栄養士たちも好意的に受け止めており、来年も実施してもらえればありがたいし、もし実施するならバックアップしていきたいという意見をもらったので、ひとつ新しい道が開けたと思っている。

大堀委員 : 浦川原分館の催しで2倍の申込みがあったと資料に記載されているが、三和地区公民館で夏休みに同じような催しを企画したが、参加者がなかなか集まらず、あちこちに声かけをしてやっと実施に漕ぎ着けたということがあった。図書館で実施するにあたって、何か魅力的な参加者の集め方をしたのであれば教えてもらいたい。

内藤館長 : 浦川原分館の担当者に事前に見本を作ってもらいたいとお願いし、作ってもらった見本を高田図書館のカウンターに展示しておいた。そうすることで、子どもたちがその工作で作るものを実際に手に取ってみて、作ってみたいと思わせることができた。また、申込みは図書館4館でできるということもあって、参加者のなかには浦川原だけでなく、高田地区から参加した方もいらしたと聞いている。さらに、参加希望が多く寄せられたので、急遽、翌日にも実施したいと浦川原分館から提案があったので、了承したものである。また、浦川原のおはなし会の参加者が少なくなっていることから、乳幼児健診会場に出向いておはなし会のチラシを配って参加を募るといふこともしている。子どもの親が行くところに出向いて行って宣伝するというのもひとつの手段だと考えている。

議長 : 子どもの数が限られているなかで、新規登録者が減少傾向にあることが資料から見受けられる。このことについて、何か意見はないか。
(特に質疑、意見なし。)

○読書週間事業について (10/27～11/9)

事務局 : 別紙資料4により概要説明
(特に質疑、意見なし)

○令和2年度予算・事業予定について(非公開)

○その他

事務局 : 次回の協議会については1月末から2月を予定している。

河村委員 : 高田文化協会が発行している文芸誌「文芸たかだ」について、高田文化協会では創刊号から最新号363号まですべて揃っている。それらを使って当時を思い返すような催しは考えられないか。

高野委員 : ぜひ、高田文化協会で企画し、図書館にPRなどで協力してもらおうとかたちで実施したほうがよいと思う。読み語りジャックの会でも

20周年の際にはポスターの掲示等を図書館にお願いしてきた。

河村委員 : 承知した。

内藤館長 : 本日はありがとうございました。

9 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。